対象作品／本田有明著『願いがかなうふしぎな日記』ＰＨＰ研究所

願いをかなえるためには

弘前大学教育学部附属小学校　三上剛史

ぼくは、マンガ本を読むことが好きで、よく読みます。なので、学校の宿題で読書感想文が目に飛びこんできた時、マンガ本の感想文なら楽しく書けるのに、という気持ちになりました。せっかくなので、図書館に行ってみました。すると、『願いがかなうふしぎな日記』という本に出会いました。この本を手にした時、ぼくがもしこんなにいい日記を持っていたら、どんな願いを書いていただろう、という気持ちになりました。

この本には、光平という男の子が出てきます。光平が持っている願いがかなうふしぎな日記は、なくなったおばあちゃんからもらったものでした。光平は、そのふしぎな日記を信用していませんでした。それでも何か書かなくては、おばあちゃんにもうしわけないと思い、一つずつ願いを書きました。すると、その願いがかなっていくのです。最終的に九この願いをかなえていくのです。ぼくが一番印象に残っているのは、オボレンジャーの場面です。光平は泳ぐことが苦手で、いつもおぼれてばかり。そこでついたあだ名はオボレンジャー。願いがかなうふしぎな日記に、「ぼくは泳げるようになった!!!」と書きました。書いてからも何度も何度も泳ぐ練習をして、失敗もしながら最後には泳げるようになり、日記に書いた願いがかないます。

でもこれは、急に泳げるようになったのではなくて、光平が願いをかなえるために、何度も練習をしていたからできるようになったんだと思いました。

この水泳の話を通して、願いをかなえるためには、目標を立て、書いて、計画を立て、本気で自分の願いをかなえるために、努力していくことが大切ではないかと感じました。書くことで、たとえ失敗をしても、次はどんな風にチャレンジしたら良いか、わかるようになってくるのではないのかと思いました。

ぼくは、バスケットボールの日本代表の選手になるという夢があります。この夢をかなえるためにも、光平のように、

目標を立てて、書いて、計画をねって一つずつ努力していく！この方法を取り入れて、夢に向かって進んでいきたいと思いました。